むさしのジャンボリー40周年

大自然のなかで受け継がれる感動の体験

特集 2

市内在住の小学校4年生から6年生までが長野県川上村の大自然のなかで2泊3日を過ごす「むさしのジャンボリー」が今年で40回を迎えました。自然と触れ合いながら成長する子どもたちの様子を現地で取材しました。

（取材協力　青少協井之頭地区委員会）

都会で暮らす私たちの生活は便利になるばかり。だからこそ、子どもたちには、自然との触れ合いや厳しい環境の中での共同生活がとても貴重な体験となります。「東京では体験できない感動を通じて、子どもたちに成長してほしい」。そんな想いから、「むさしのジャボリー」は昭和47年に始まりました。主催は、市と市青少年問題協議会の各地区委員会。小学校区単位で組織されている地区委員会が中心となり、毎年のジャンボリーが企画されています。対象は市内在住の小学校4年生から6年生。参加は自由です。

ジャンボリーを支えるのは、各地区の大人や青少年です。中高生は講習会を受けて「サブリーダー」（地区が認めた場合には「リーダー」）として参加し、小学生たちの生活を補助します。18歳以上の大人たちは「リーダー」として、子どもたちが楽しく、そして安全に過ごせるように環境を整えます。ジャンボリーは、地域の大人や青少年が小学生のために大自然の中での体験の場をつくり、「夢と感動の機会」を次世代に継承する夏の地域イベントです。

ジャンボリー40年の歩み

昭和47年（第1回）	静岡県朝霧高原にて開催。参加児童218名（6年生のみ）、2泊3日
昭和48年（第2回）	奥多摩町海沢にて開催。武子連、青少協地区委員会、教育委員会の共催に。同年より、昭和56年まで1泊2日の開催
昭和49年（第3回）	神奈川県清川村宮ヶ瀬長者屋敷にて開催。以後、昭和55年まで同地で開催
昭和50年（第4回）	参加児童が1000人を超える
昭和51年（第5回）	青少協地区委員会と教育委員会の共催に
昭和55年	会場の宮ヶ瀬長者屋敷がダム建設に伴い水没するため、ジャンボリーのできる市所有のキャンプ場建設を検討
昭和57年（第11回）	長野県川上村に完成した市立自然の村での第1回開催。台風のため中止の地区も。同年から2泊3日に
昭和58年（第12回）	前年に台風による中止の地区もあったため中学生の参加者も
平成12年（第29回）	この回から中高生がサブリーダーとして参加
平成16年（第33回）	口径500mmの天体望遠鏡の寄贈を受け、天体施設が開所
平成18年（第35回）	サブリーダーに中高生リーダー講習会の受講を義務づける
平成19年（第36回）	開催期間が全11回になる

武蔵野市立 自然の村について

昭和57年に「開村」した自然の村は市所有のキャンプ施設です。村内には小川が流れ、周囲には広葉樹の森が広がっています。宿泊施設は5人から14人で泊まれるキャビン棟が全22棟。また、広場や天体観望施設、キャンプファイア場などの施設では、自然の中でしか味わえない活動ができます。

自然の村から眺める星空

キャビン棟

星の広場の営火場

施設概要

所在地　〒384-1401 長野県南佐久郡川上村大字川端下547番地の1
電　話　0267-99-2400
施　設　中央棟（木造2階建）、管理棟（木造平屋建）、多目的広場、駐車場
キャビン地区：キャビン棟（木造平屋建22棟：5人用6棟、7人用12棟、14人用4棟）、キャビン管理棟（木造平屋建）、炊事場（洗い場4棟、かまど4棟）、トイレ（2棟）、広場（2カ所）、営火場（2カ所）、天体施設（木造2階建）、倉庫（2棟）

ジャンボリーのスケジュール

楽しみがいっぱい詰まった3日間

1日目

❶到着後、星の広場で入村式

❷自由時間は村内ハイキングも

❸夕食は初めての飯ごう炊さん

❹夜は感動のキャンプファイア

2日目

❶起床後はみんなでラジオ体操

❷朝食のサラダも手づくり

❸近くの山に全員でハイキング

❹外は雨でもキャンドルファイアに大歓声

3日目

❶調理器具を洗って返却。厳しい検査も

❷マヨネーズ容器で水をかけあうマヨデッポウ!

❸最後のイベント、退村式

❹スタッフに別れを告げて東京へ

大自然に学ぶ

大自然は子どもたちを成長させる〝先生〟

自然の村は文字どおり自然の宝庫。広大な村の敷地内には小川が流れ、清らかな水には淡水魚やサンショウウオが生息しています。周囲には広葉樹の森が広がり、ハイキングコースも整備されているので、森をすみかとする動物、昆虫、鳥たちの観察もできます。プログラムでは周囲の山々を登るハイキングも。夜は天気がよければ満天の星空が広がります。子どもたちは森や川で思い切り遊び、実体験を通じて自然からさまざまなことを教えてもらうのです。

▶自由時間や団体行動で必ず行われるハイキング。広葉樹の森を歩いているだけで大自然に触れられます。

▲村内には十石沢が流れ、子どもたちは自由時間に淡水魚やサンショウウオを穫ります。水晶も採取できるとか。

◀近くには千曲川の源流のひとつ、金峰山川が流れます。澄み切った清流での川遊びに水の冷たさも忘れて、子どもたちは大興奮。

仲間と協力する

仲間と一緒だから大変なことも乗り切れる

ジャンボリーでは自分たちで火を起こし、食材を切って、煮炊きをします。チームのなかで役割分担を決めて、協力し合わなければなりません。腹ぺこになりながら、一緒に料理を作るのもかけがえのない体験。プログラムのハイキングでは急な傾斜を登る場面も。6年生が4年生を気づかい、4年生は5、6年生を目標にしながらがんばります。仲間と一緒のハイキングだから、つらい道のりも乗り越えることができるのです。

▲食事づくりは子どもたちだけで行います。まずはかご一杯の食材を受け取り、協力しながら炊事場まで運びます。

◀ 火起こしや食材切り、みんなで分担しなければ食事はできません。知恵を出し合いながら火を起こしていきます。

▶ハイキングでは急な岩場やはしごを上り下りする場所も。みんなで励まし合いながら難所を乗り越えていきます。

参加した小学生たちの声

男子

- ジャンボリーはいろんなハプニングがあってめっちゃ最高です!（6年生）
- カレーのごはんが柔らかくておいしかった。山登りはむっちゃ大変だった。（4年生）
- ここでしかできないことがあった。来年も来たいと思っています。（5年生）
- ジャンボリーで自分がちょっと変わりました。中学生になっても来たいです!（6年生）

女子

- ごはんづくりが一番大変だった。ぜんぶおいしかった。うちのカレーよりもおいしいかも!（4年生）
- マヨデッポウが一番おもしろかった。家ではあれだけ水をかけると怒られちゃうから。また来たいです。当たり前じゃないですか!（5年生）
- ハイキングで山に登れたのでよかったです。帰ったらお母さんに報告します。今年は中止だったけど肝試しが苦手だから来年はどうしようかなぁ。（5年生）
- 今年3回目。来年もサブリーダーになって来ます。大人になっても来たいです。（6年生）

体験を受け継ぐ

先輩から後輩へ、受け継がれる感動体験

ジャンボリー初日には不安そうな顔をしていた4年生。先輩の5年生、6年生と一緒に過ごすことで、最終日には自信にあふれた顔になっていました。来年には5年生として4年生に自分の経験を伝えていきます。高々と火の上るキャンプファイア。苦しい山道を克服したハイキング。遅くまで語り合ったキャビンでの夜。東京の生活では決して味わえない「感動」があるからこそ、ジャンボリーという体験は脈々と受け継がれているのです。

◀暗闇に炎が高く上るキャンプファイア。炎の光の中で、歌を歌い、ゲームをする体験は一生の思い出になります。

▲ 最終日は肝試しやキャンドルファイアが行われます。大変なこと以上に、楽しいことがたくさんある。その楽しい体験がジャンボリーをつないでいきます。

▶班分けは4～6年生の班なので学年の違うメンバーとも仲良くなります。みんなで語り合っているとあっという間に深夜です。

ジャンボリーが来て、夏が来る

青少協井之頭地区委員長　本郷伸一（ほんごうしんいち）さん

小学校の3年間参加して、18歳でリーダーになってからも17年間続けてきました。とにかく楽しい！ジャンボリーは夏の代名詞です。子どもたちは山登りなど大変なこともありますが、みんなと一緒だから乗り切れます。4年生は上級生を見て、6年生はサブリーダーを見て、そしてその先には大人たちがいる。ずっと続けられるんだと思えるのは素晴らしいことです。これからも続いてほしいし、もっと多くの子どもたちにも参加してほしいですね。

任せて、見守る

体験する場だから、子どもに任せ、大人は見守る

子どもたち7～8人から成る各班には、中高生のサブリーダー、そして指導者としてのリーダーがいます。ジャンボリーの主役はあくまでも小学生たち。川や山の遊びでも大人たちは優しく見守ります。食事づくりでも、子どもたちは、ナタで薪（まき）を割り、薪で火を起こし、包丁で食材を切ります。サブリーダーやリーダーたちは、子どもたちに自由に作業を任せていきます。実体験で学び、でも見守りを怠らない。それがジャンボリーの姿勢なのです。

◀金峰山川で遊ぶ子どもたち。大人たちが天候などに気を配りながらしっかりと見守って、子どもたちは思い切り遊びます。

▶夜間に行われたキャンドルファイアでの一場面。親から離れたところでも、子どもたちは伸び伸びと楽しい時間を満喫します。

▼大人の指導をしっかり聞いたうえで、子どもたちは薪を割り、包丁を使い、直火での食事づくりにトライしていきます。

外で遊ぶ子どもを見るとうれしくなる

リーダー　小林翔平（こばやししょうへい）さん

小学校から数えると今年で11回目の参加です。大学で生物学を学んでいるのですが、小学生のときから動物が大好きで、ここに来ると東京では見られない生き物がいっぱいいたのでとても楽しみでした。井之頭あそべえでスタッフをしていますが、最近は外で遊ばない子どもたちも多い。そんな子どもたちが自然の中で思い切り遊んでいるのを見るとうれしくなります。何回参加しても、ジャンボリーは毎年違う。一生ジャンボリーに参加したいです！